

《特選》

人の違いなんてない

彦根総合高等学校 1年

古川 大稀 さん

私は四人兄弟の長男です。日々の生活の中で、ずっと疑問に思っていることがあります。それは、「お兄ちゃんだから、我慢しなさい。」とか「お兄ちゃんだから、出来るでしょ。」という、男の子だからどうか、女の子だからどうかあるべきかと言う決めつけです。私も、下の兄弟が産まれてから、呪文のように聞かされていました。なぜ、私だけ我慢しなければいけないのかと、嫌な気持ちになったのを今でも忘れません。そんなある日、たまたま見ているTV番組で、私の疑問に思っている事の特集をしてい

ました。私と同じような疑問を持っている人が、たくさんいることに驚きました。

人は、血液型で相手の性格を決めつけたり、権威のある人の言うことは絶対正しいと思ったりしてしまいます。

私たちは、必ずしも正しいとはいえない常識をまるで常識であるかのようにとらえ、発言したり振る舞ったりしてしまうことがあります。無意識のうちに「これが当然」「普通はこうだ」といった思い込みを持ち、その考えを相手に押し付けたり、「だからこうに違いない」と決めつけたりする原因になっているのが、「無意識の偏見」いわゆるアンコンシャス・バイアスといわれるものであります。こうした偏ったものの見方は、育った環境や過去の経験、見聞きした事柄などから形成され、多かれ少なかれ誰もが持っています。これが言動

となつて表れたときに、人を傷つけたり人間関係を悪化させたりするので注意が必要ですよ。

私は、アンコンシャス・バイアスのことについて知って、いろいろ学ぶことが出来ました。自分でも気付かないうちに、周りの人を傷つけていることがあるのは本当に怖いことだと思いました。私が周りから言われていた事も、アンコンシャス・バイアスであることに気付きました。TVでも放送されていたように、本当にたくさんの方が何気ない言葉で傷ついて、嫌な思いをしていることを知りました。人と話すときにはアンコンシャス・バイアスのことを思い出したいと思

《選評》

家族から「あなたは長男だから〇〇しなさい」等の決めつけや、なぜ自分だけが我慢しないといけないのか、我慢嫌な気持ちがあるのか、忘れられないと素直に述べています。この思いは、長女や弟、妹の立場にも言えるかもしれません。筆者は、この事例から「無意識の偏見」(アンコンシャス・バイアス)が何気ない言葉となって出たときに人を傷付けるので気を付けたいと結んでいます。家族として、社会人として誰にでも思い当たる問題提起であり、自分事として考えさせられる作文で、構文もしっかりしています。